

研究プロジェクト報告

研究プロジェクト5：成果報告（2019年度～2020年度）

富田 幸祐（オリンピックスポーツ文化研究所）

1. 研究プロジェクト名

日本におけるオリンピック・パラリンピックの招致

2. 研究プロジェクトの概要

日本においてオリンピックの招致は1940年の夏季冬季大会の招致以降、絶えず行われてきている状況にある。しかし、開催権を獲得した大会以外の招致活動に関しては、研究の対象となってきたいなかった。またパラリンピックについてもその大会準備について検討した研究は少なかった。そこで研究プロジェクト5「日本におけるオリンピック・パラリンピックの招致」では、日本において行われたオリンピック及びパラリンピックの招致活動の内、①1988年の第24回オリンピック競技大会の名古屋の招致活動と②長野で開催された第7回パラリンピック冬季競技大会の準備、運営について明らかにすることを目的とした。①については名古屋市市政資料館に名古屋オリンピック招致に関する文書群が所蔵されており、史資料の収集を行い、分析を行った。②については長野パラリンピックに関わった人物へのインタビュー調査を行った。インタビュー調査を行ったのは長野パラリンピックの事務局次長を務めた伊原義文氏と長野パラリンピックの番組制作を担当した村山隆氏である。なお村山隆氏への聞き取りは2度行われており、その内1回は研究プロジェクト3にて行われた。本研究プロジェクトで行われた村

山氏への聞き取りはその成果を反映させたうえで行われたものであることを付記しておく。

3. 研究成果報告

①名古屋のオリンピック招致に関する研究

担当：富田 幸祐

名古屋によるオリンピック招致構想は1977年8月に愛知県知事の仲谷義明の発言を端緒とする。名古屋市の市長であった本山政雄は仲谷の発言に対し戸惑いを見せたが、愛知県と名古屋市の関係者によって、検討が進んだ。検討の中で三重県や岐阜県を含む三県一市による共同開催をベースとした計画となり、1978年に入ると三県一市の関係者が集ったオリンピック問題協議会が設置されて、協議が重ねられた。ただ一方で、こうした県や市主導によるオリンピック招致計画の進展、そして大会開催に係る費用負担への懸念から市民によって反対運動も展開されることとなった。とはいえ1980年11月には名古屋のオリンピック招致に対し日本政府が閣議了解を出し、同月にIOCに対し1988年第24回大会開催立候補をした。その他立候補した都市にソウルとメルボルンがあった。ところがメルボルンは途中で招致活動を取り止め辞退し、最終的に1988年第24回大会の招致活動は名古屋とソウルの一騎打ちとなったのである。そして1981年9月の第84次IOC総会で、開催地を決める投票が行われた。結果はソウルが52票で名古屋が27票であった。こうして1988

年第24回大会の開催地はソウルに決まり、名古屋は落選したのである。

以上の様な展開を見せた名古屋のオリンピック招致に関し、名古屋市市政資料館で史資料収集を行った。収集した史資料は表1の通りである。また収集した史資料の内、「オリンピック問題協議会・名古屋オリンピック招致委員会総会議事録」の分析を行った。このオリンピック問題協議会とは、名古屋オリンピック招致委員会が設立する前に、名古屋へのオリンピック招致を検討するために設置された協議会であり、出席者は名古屋市及び愛知県、三重県、岐阜県の知事、議会の代表者、三県の市町村の代表者や体育協会関係者、学識経験者である。

協議会は全部で7回開催された。大会の構想や大会開催による東海圏の開発、三県一市による広域開催構想、市民への周知といった点について議論が行われていた。

②長野パラリンピックに関する研究

担当：富田 幸祐，斎藤 雅英

長野パラリンピックに関わった2名に対してインタビューを行った。

伊原義文（長野パラリンピック組織委員会事務

局次長）

日程：2019年8月22日～23日

インタビュー内容：長野パラリンピック組織委員会の運営、準備について

村山隆（元信越放送）

日程：2019年12月14日

インタビュー内容：前年度インタビュー内容の確認、長野パラリンピックの放送体制、信越放送の長野パラリンピック関連の映像アーカイブについて

4. 主な発表論文等

①論文等

富田幸祐・斎藤雅英「長野というパラリンピック経験：伊原義文氏に聞く」『オリンピックスポーツ文化研究』第5号，2020年，pp.179-190.

富田幸祐「オリンピック開催という欲望の痕跡」『ひすぼ』第106号，2020年，pp.1-2.

②発表講演等

富田幸祐「オリンピック・パラリンピックの誕生と展開：平和の希求と人類の挑戦」茅ヶ崎市役所令和元年度一般教養講座，2020年2月.

富田幸祐「東京オリンピック・パラリンピック

表1. 収集した史資料一覧

資料名	作成
An Outline of Nagoya City (オリンピック) <英語版・ドイツ語版・フランス語版>	総務局
名古屋オリンピック招致活動資金 財界募金 趣意書	財団法人 スポーツ振興資金財団・名古屋オリンピック招致委員会
IOC 総会説明資料 (オリンピック)	名古屋オリンピック招致委員会
1988 名古屋オリンピック輸送計画策定のための基礎資料 1981.9	総務局
オリンピックのはなし	日本オリンピック委員会
オリンピックムーブメント 招致代表団手持資料 (プレゼンテーション関係)	オリンピック問題協議会
映画 名古屋オリンピック (台本)	オリンピック問題協議会
IOC の質問に対する回答書 第24回オリンピック競技大会 ラジオおよびテレビに関する質問への回答	オリンピック問題協議会
名古屋オリンピック競技大会構想案説明会案内状 クリスマスカード などの綴	オリンピック問題協議会
"88 NAGOYA JAPAN (オリンピック)	名古屋オリンピック招致委員会
オリンピック NAGOYA '88 VOL.13	日本オリンピック委員会
オリンピック問題協議会・名古屋オリンピック招致委員会総会議事録	オリンピック問題協議会
オリンピックを考える市民連絡会議	総務局オリンピック対策室

の歴史」東京水辺ライン：水上バスから見える
2020・オリパラ会場解説と葛西大観覧車，2019
年9月。

富田幸祐「1988年第24回夏季オリンピック競
技大会の名古屋招致活動の展開に関する基礎的検
討」日本体育学会第70回大会，2019年9月。

5. 研究組織（プロジェクトメンバー一覧）

研究代表者：富田 幸祐

研究者：関根 正美，斎藤 雅英，松瀬 学，
神田 俊平（2020年3月まで），松本
彰之

（受理日：2021年3月31日）